

令和5年度 事業報告書

令和5年度は、数年間にわたりシルバー人材センター事業にも少なからず悪い影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症の分類が、季節性インフルエンザと同等の5類に移行したことを契機に、行動制限が撤廃され、我が国の社会経済活動は活気を取り戻していきました。

本市で言えば観光施設やイベント等への影響もほとんど見られなくなり、若い人を中心に、熱海駅前など大変な賑わいを見せるようになりました。

熱海市シルバー人材センターの各種状況について報告いたします。

最初に会員数です。過去5年間の会員数を年度末実績で比較すると、令和元年度末が311人、令和2年度末には300人となり、令和3年度末には273人と減少を続け、令和4年度末は少し持ち直し283人となり、徐々にではありますが今後も会員数の増加が見込めるものと期待しました。そして、令和5年度も毎月入会説明会を開催し48人の方が入会しました。しかし、退会者も同数あり、結局5年度末の会員数は4年度末と同数の283人となりました。退会者の退会理由を見ますと、加齢や病気など高齢化による理由を上げられる方が多くありました。これは、令和3年度からの改正高齢者雇用安定法により、70歳までの就業確保が努力義務とされたことなどによる入会希望者の高齢化、ひいてはセンター全体の高齢化がさらに進んでいることが一つの原因であると思われます。

また、就業状況については、令和4年度の実人員が204人であるのに対し、令和5年度は213人で、就業率も令和4年度の72.1%から75.3%となり、若干ではありますが回復基調にあります。しかし、コロナ禍以前の令和元年度の242人、77.8%と比較すると、まだまだ厳しい状況が続いています。

配分金、材料費、事務費を含む契約金額合計は118,393,962円で、前年度の117,095,373円に対して1,298,589円の増額となりました。令和4年度と比較すると改善は見られたものの、こちらも令和元年度と比較すると、契約金額（指定管理含む）合計で約970万円の減額となっており、今後は会員数の増加とともに、就業先の確保と就業率の改善を図ることが課題といえます。

最後にその他、普及啓発活動等についてです。

まず、普及啓発活動については、12月の行われた福祉まつり会場において、啓発品を配布するなど、シルバー人材センターの周知に努めました。

安全対策としては、事故の予防措置として今年度も草刈・剪定作業に従事する会員を中心に作業現場での安全意識の向上を図るため、安全委員による現場での声掛けを行い、ヘルメット等の安全具装着の徹底を図りました。

地域社会奉仕活動としては恒例の梅園清掃ボランティアを実施しました。

今後も、ニーズに応じた多様な就業機会に応えられるように工夫を重ね、会員数の増加を図り、地域の発展に寄与してまいります。